



ごあいさつ

いよいよ2005年度(平成17度)が始まりました。昨年は、記録的な台風の日本上陸、新潟地震、そして今年に入ってから福岡沖地震など天災が多発しております。

まさに、防災における危機管理が大きく問われることとなります。いざ、新潟・福岡沖級の地震が起こった場合、どのように避難し、地震後の復旧についてどういった対応策を行うか、早急に確認しておかなければなりません。起こってからでは間に合いません。今だからこそ、行政・市民が一体となって、再確認しておかなければなりません。

江田島市となって5ヶ月が過ぎました。合併してよかった、という街にするため行政・議会・市民が三位一体となって創意工夫をしなければなりません。行政は”市民の声”を広く聞き、市民の皆さんにとって”住みよいマチ創り”を日々考えながら仕事をして頂きたい。

また、市民代表である市会議員は、”市民”の負託に応える政治活動を行わなければなりません。いよいよ、地方分権や権限委譲の推進により地方自治体は自己責任をもって地方自治をしていかねばなりません。行政の監視役である議会は、これまで以上に、幅広い知識をもって、チェック機能を強化することが求められます。議会は、条例制定権をもつ”立法府”でもあります。市民の皆様がよりよく住むための、条例を策定するために、日々研究することも大切な職務です。(条例：自治体の憲法。)

今後とも、市民の皆様とともに考え、行動してまいります。いろいろなご意見を聞かせていただけませんか？

胡子雅信

『少子化時代の対策と地域づくり』



2005年2月23日(水)、中国新聞社主催講演会に参加しました。

講師：白石 真澄 氏

東洋大学経済学部社会経済システム学科助教授

演題：【少子時代の対策と地域づくり】

女性が産む子どもの平均人数が1.57人となった1990年に所謂、『1.57』ショックと呼ばれて、国を挙げての少子化対策が模索されはじめました。人口を維持するためには、出生率は2.08人が必要といわれておりますが、昨年厚生労働省発表によりますと1.29人まで減少しております。この15年間、国の少子化対策は全く機能しなかったといえます。

女性の高学歴化、**男女雇用機会均等法**(1986年=昭和61年施行)によって女性の社会進出が顕著化しました。しかし、育児への国・自治体の応援システムが現状にあっていなかったのではないのでしょうか。

育児を地域で支援しあう**ファミリーサポートセンター**の設置や、構造改革特区による**幼稚園と保育園の一元化**など、国内で前向きな動きを見せているのが最近です。国は国民がいて初めて成り立ちます。将来の国民を育成することにもっと税金を投入するべきであると考えます。

ファミリー・サポート・センター

仕事と家庭の両立を応援していくために、育児や介護を、少しでも地域で支えていこうという考えのもとに作り出されたシステムです。子どもを一時預かってもらいたいとか、病気などの困ったときに手助けをお願いしたい「依頼会員=お願い会員」と、子育てや介護を手伝ってあげようという「援助会員=任せて会員」の応援ネットワークが「ファミリー・サポート・センター」です。

この制度は、平成6年(1994年)に労働省(現 厚生労働省)が「仕事と育児両立支援特別援助事業」として始めたもので、設置基準は原則として人口5万人以上の市町村となっており、運営費には補助金が交付されます。



第一回 江田島市議会選挙の議員定数

2月21日の江田島市議会臨時会において、第一回市会議員選挙は、旧町単位で選挙区を設けることで決定しました。平成12年国勢調査に基づいて、江田島町10人(現職16人)・大柿町8人(現職12人)・能美町5人(現職12人)・沖美町3人(現職12人)の議員定数が決まりました。

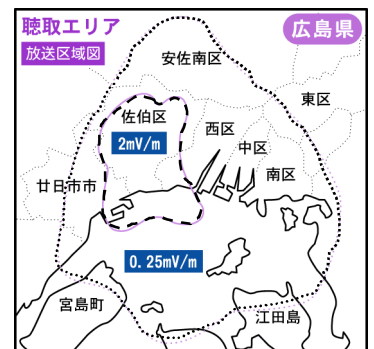
防災対策と地域情報基地としての【ラジオ局】を考えてみる

昨年の台風18号が来たときに困ったことは？ 昼過ぎからの停電、電話がつかない。今どこで何が起きているかわからない。まずは、ラジオに電池を入れて、RCCラジオ(中国放送)を聴いたのではないのでしょうか？

しかし、RCCは県内各地域の大まかな情報しかなく、台風の進路状況だけが、唯一、私たち島民にとって有益な情報だったのではないのでしょうか。どこの道が通れなくて、どこに行けば避難場所として安全か、といった江田島・能美島情報はありませんでした。

災害時のラジオの活躍は、阪神大震災や昨年の新潟震災、今年の福岡沖震災においても十分証明されております。以前の【放送法】という法律では、都道府県単位の放送エリアでしかラジオ放送の免許は出ませんでした。

現在では、市町村単位(広島市などの政令都市では区単位)でラジオ局を開設できます。広島市佐伯区(旧:佐伯郡五日市町)では、そういったラジオ局(FMななみ)があります。(視聴範囲は右図)

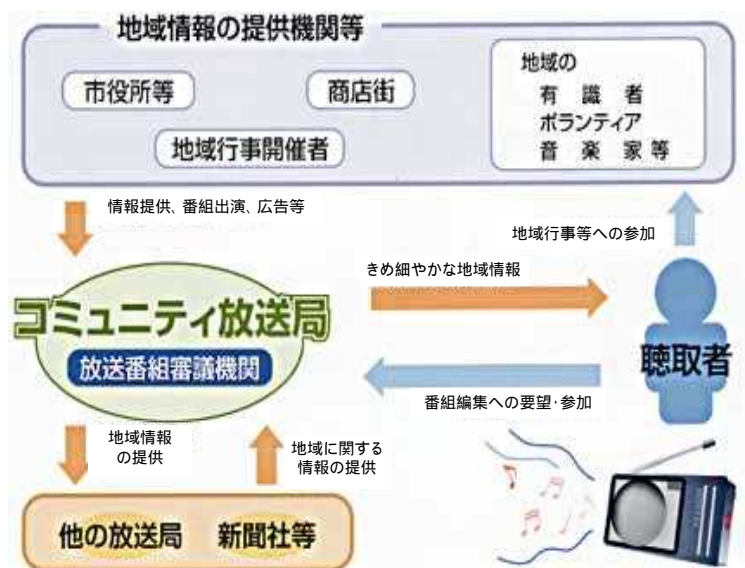


大柿町内で朝夕の【防災無線おおがき】はしっかりと聞き取れますか？他の3町でも同じ状況ではないのでしょうか？ラジオであれば、畑にいても、車の中でもしっかりと聞き取れます。また、市内の商店からの特売情報やイベント情報、はたまた運動会の実況中継もあるでしょう。たくさんの地域情報を市民のみなさんに伝えることができる有益な手段といえます。

2004年(平成16)4月現在の地域FMラジオ局は155局。資本金の平均が約8,000万円。地方自治体の出資している第三セクター会社が52%強と半数以上あります。

『議会だより』でしか知ることができなかった議事内容も、臨場感あふれる放送で聞くことができるようになります。情報公開の一助となります。

これからもFMラジオについて、研究してまいります。また、防災対策としては、アマチュア無線いう手段も有効であるといわれております。災害時のための情報伝達手段を早急に検討しなければならないと考えますが、皆さんはどう思われますか？



若手市会議員から若手広島県人のネットワークへ

前号で報告しました若手市議会議員ネットワークは順調に育っております。市議会議員(候補予定者含む)だけでなく、県職員・各市職員・民間企業の若手から参加したいという意思表示を頂戴しました。2月下旬に福山市議(旧:沼隈町選挙区)に当選された岡崎正淳議員(33歳)からも参加表明を頂きました。ここにおいて、若手市議のメンバーとしては、西から大竹市・広島市・三次市・福山市。候補者および職員・民間企業のメンバーは江田島市・呉市・東広島市・三原市。広島県の東西南北から若き同志が集まったこととなります。現在、会の名称を策定中であり、本格活動は04月を予定しております。(現在、廿日市市議にも案内しております。)

去る3月19日に、私の大学先輩である日本銀行員を講師として、有志メンバーで勉強会を広島市内で行いました。(ある意味では、異業種交流会) 広島在住の我々からすると、広島経済についての集中的な質問ができました。当日は、日銀広島支店の方も参加され、お互いに忌憚ない意見交換をすることができ、次回からの本格活動にむけて弾みがついたといえます。

若い分、勉強する分野が大いにあり、お互いを刺激しあいながら、自分の見識を磨くことによって、地域発展に貢献したい、という強い気持ちがこの会の原動力です。今後の活動を大いに期待ください。

後援会に参加し、活動を支えていただけませんか？

胡子雅信後援会事務所 (大柿町公民館より徒歩1分)

住所: 〒737-2213

江田島市大柿町大原546-6 胡子ビル1F

電話: 0823-57-2184 ファックス:0823-57-2357

ホームページ: <http://homepage3.nifty.com/ebisu7/>

E-MAIL: ebisu7@nifty.com

後援会規約(抜粋)

本会は、胡子雅信氏の政治活動を後援し、かつ、会員相互の親睦を深めることを目的とします。

本会は、前条の目的を遂行するため、次の事業を行います。

- 1 講演会・座談会などの開催
- 2 会報などの発行および配布
- 3 関係諸団体との連携
- 4 その他本会の目的に関連する事業

本会の経費は、会費・寄附金その他の収入をもって充当します。